



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 興石 信
令和6年度 第6号
2024. 7. 12

学校の様子を見てもらいました、7/9市教委訪問

生徒や学校の様子を見てもらいました。授業参観後の懇談会では、教育長や教育委員の方から多くの意見や感想をいただきました。その一部を紹介します。

<生徒・教師の様子> どの教室でも、生徒が授業に生き生きと取り組んでいる様子が見られた。／生徒と教師の関係性がとてもよいと感じた。生徒も学びに対してとても意欲的であった。／英語の先生の笑顔がとても素敵だった。英語でのコミュニケーションを楽しむ雰囲気が醸し出されていた。教卓の前に立って英語で質問を出す生徒の様子が素晴らしかった。／特別支援学級の授業では手厚いサポートがされていた。実物（温度計）を使っていたことで、生徒が興味をもって取り組んでいた。／数学の時間では、授業の振り返りに端末を使って行っていた。毎時間、生徒自身が振り返りをすることはとても大切だと思う。自分の学習の履歴にもなる。／理科は実物（顕微鏡）を使った授業だったが、みんなで協力する姿が見られ、感心した。実物とICTをうまく組み合わせていた。／学年合唱は体全体で歌っている生徒が何人もいた。声を合わせる心地よさを感じながら歌っていた。学園祭に向け、すばらしい合唱を期待したい。

<教育環境> やはり「日本一の下駄箱」だと感じた。正面、横から見てもきちんと揃っていた。他校に比べてもすばらしい。こうした基本を大切にすることはとても大事だと思う。／自己紹介カードや学年生徒会のスローガンなど、掲示物が充実していた。教育環境が整っていると感じた。／廊下の「本」の展示が印象に残った。中学生の時期は悩みを抱える時期でもある。そんな時に「本」が解決の糸口を与えてくれることもある。今後も、こうした環境づくりを大事にしていってほしい。／ICTを使い慣れている様子が伝わってきた。ロイロノートも活用されていた。端末を持ち帰るなどの活用も積極的に進めてほしい。

<全体> 生徒が落ち着いていて親和性の高さが伺えた。学校としてチームとして取り組んでいることの成果だと感じた。

誠樹祭の取組が始まっています。Road to SEIJUSAI

<合唱> 最近、学校のあちこちから生徒の歌声が聞こえてきます。その声が、日を追うごと、大きくなり、美しくなり、重なり合っていきます。姿を見ずとも、一生懸命歌っている様子や進歩している様子が感じられます。ついつい、その声に惹かれて音楽室に行って「生歌」を見ると、また、感動です。どの生徒も両脚にしっかりと体重を寄せ、指揮をきちんと見て、大きな口を開け、真剣な眼差しで歌っています。学級としての一体感が伝わってきます。その迫力、真剣さにこちらが圧倒される感じさえあります。また、校長室で仕事をしていると、時折、何人かの生徒が合唱の一節を口ずさみながら通っていきます。誠樹祭に向け学校が動き出していることを実感します。きっと本番ではどのクラスもすばらしい合唱を披露してくれるんだろうという期待感が高まります。ぜひ、多くの保護者の皆さんに、子どもたちのハーモニーを聞いていただきたいと思います。生徒の皆さん、暑い夏を越えて、『僕たち、私たちの歌』をクラス全員で力を合わせて創り上げてください。とっても期待しています。



※各クラスの合唱曲は以下のとおりです。

- 1の1 『地球星歌』、1の2 『未来へのステップ』、1の3 『Yes!』、1の4 『My own road』、1の5 『幸せ』
- 2の1 『ほらね』、2の2 『生きている証』、2の3 『越えてゆけ』、2の4 『忘れることなんかできない』
- 3の1 『あなたへ』、3の2 『正解』、3の3 『黒い瞳』、3の4 『虹』、3の5 『翔る川』

<壁画> 昨日(7/11)の午後、各教室で、誠樹祭の全校制作(壁画)の色塗り作業が行われました。この作業に先立って、生徒会本部から全校生徒に壁画募集を行い、選考された7つの候補作品から生徒の投票により今年度の全校制作の壁画(右上の写真)が決定していました。この日の作業は、一人一人が自分に割り当てられたピース(A3判サイズ)のマスキング(150マス)に決められた色の絵の具で塗っていくという細かな作業を行いました。いくつかのクラスの様子を見学に行きましたが、どのクラスも真剣な表情で、でもどこか楽しげでもあり、集中して取り組んでいました。その中でも、やはり3年生は2年間の経験があるだけのことはあり、手際よくきれいに塗りつぶしができている人が多かったように思います。



これから、壁画実行委員の手により、出来上がった504個のピースを縦4m横7mの巨大な台紙に貼り付け、一つの絵にしていく工程に入っていきます。壁画を貼り合わせていく作業は全校生徒みんなの心をつなげていく作業です。第61回誠樹祭のシンボルとなる大切な壁画です。心を込めてお願いします。開祭式での披露を楽しみにしています。